

看護管理 第22巻 総目次

2012年(1月～12月号, 増刊号)

表示は, 著者名: 題名, 号数, 掲載ページ.

特集

看護師長のための実践的マネジメント論

- わたしが大切にしている3つのキーワード(1号)
松月みどり: 組織の文化と場を客観的にとらえる, 1, 10-14.
成田康子: 歩き続ける管理者をめざして, 1, 15-19.
鈴木正子: 師長たちよ, 自信をもとう!, 1, 20-25.
藤野みつ子: 目標を達成に向かわせる力, 1, 26-31.
道端由美子: チームワークで業績をあげる管理者となるために, 1, 32-37.

戦略的に実施する人事考課のしくみ

- ひとをいかに評価し, 育てていくか(2号)
武村雪絵: 「人を活かす」制度の考え方 —— 人事考課の基本と師長の役割, 2, 94-98.
佐藤エキ子: お互いが育まれる評価の考え方, 2, 99-106.
世古口務・石田由紀子・大林春樹・小倉嘉文: 自治体病院での看護師人事評価制度の導入 —— 看護師確保とモチベーションアップを実現する松阪市民病院の取り組み, 2, 107-113.
河野秀一: 看護部における人事考課実施時の課題と解決へのヒント, 2, 114-117.
大原まゆみ: 組織が求めるあるべき姿と自分が向かう方向のベクトルを合わせる, 2, 118-123.

東日本大震災から1年

今後に活かす災害支援(3号)

- 東智子: 災害サイクルに応じた救護活動への提言 —— 現地派遣スタッフのメンタルヘルスの実態と救護班看護師長の活動状況, 3, 178-181.
伊藤とし子: 職員・救護班・患者の被曝不安のなかで —— 原発事故後の福島赤十字病院が取り組んだこと, 3, 182-188.
阿部幸子: 岩手県での急性期から現在までのこころのケア活動, 3, 189-194.
原徳子: 「語ろう! 聞こう! 会」からみえたこと —— 松江赤十字病院の派遣者のこころのケア, 3, 195-200.
高田早苗: 長期的視野をもった看護支援を —— 看護ケア班の活動を引き継いだ日本赤十字看護大学合同の支援活動計画, 3, 201-203.
村田美和・河端恵美子・迫田綾子・村田由香・山本加奈子・新沼剛・三味祥子: 日本赤十字看護大学合同ケアプロジェクト —— 仮設住宅での健康講座開催, 3, 204-210.

I 2012年度介護報酬との同時改定で診療報酬はどう変わる?(4号)

- 山田康夫: 2012年度診療報酬改定の概要とポイント, 4, 272-285.
奥村元子: 看護管理者のための改定の読み方入門 —— 急性期入院医療と高度で専門的な看護の評価, 4, 286-292.

II “特定能力”をもった看護師が働く職場

- 草間朋子: ここまできた「特定能力認証看護師」, 4, 294-295.
藤内美保・小野美喜: 特定能力認証看護師の役割と養成教育の実際, 4, 296-301.
高野政子・福田広美: 日本において特定能力認証看護師が誕生するまで —— NPの養成開始までの足跡と制度化に向けての活動, 4, 302-306.
藤川桂子: 看護管理者による特定能力認証看護師への支援, 4, 307-309.
藤富豊: 病院長(施設長)からみた特定能力認証看護師への期待, 4, 310-312.
村井恒之・廣瀬福美・光根美保・塩月成則: 特定能力認証看護師としての1年を振り返る, 4, 313-319.
桜井礼子: 養成課程修了後の研修システムへの提案, 4, 320-321.
葉玉哲生・草間朋子: 今後の課題と展望, 4, 322-323.

診療報酬・介護報酬同時改定

2025年に向けた流れを読む

- 勤務負担の軽減と病院と在宅の連携強化(5号)
齋藤訓子: 入院から在宅への流れを考える —— 診療報酬・介護報酬同時改定で示された仕組みと方策, 5, 378-383.
奥村元子: 看護管理者のための改定の読み方入門2 —— 地域との連携と褥瘡対策, 5, 384-389.
宮部剛実・池田恵津子・間宮直子・小山信一・橋本尚也・松木大作・千葉見義: 看護職員の負担軽減と働きがいの両立で地域No.1を目指す, 5, 390-394.
石田昌宏: 看護管理者が2025年に向けてめざすことは何か —— 社会保障と税の一体改革と診療報酬・介護報酬同時改定からみえること, 5, 395-399.

多職種協働で推進する医療の力

—— 先進的かつ効果を上げアウトカム評価がなされている事例より(6号)

- 菅野喜久子: 各専門職が高い役割意識をもちチームの存在感を高める —— 院内における緩和ケアチームの役割と専従看護師の活躍, 6, 456-461.

都倉広子・若林稲美：リンクナースの活用で現場に根差した活動の推進——武蔵野赤十字病院における ICT の活動，6，462-466.

高橋陽子：常に病棟に専門職がいること，そしてその専門性を活かす——褥瘡対策における栄養サポートチーム専従看護師の関わり，6，467-472.

田沢弘子：看護師が他職種と協働で行なう身体的・精神的・社会的ケア——造血幹細胞移植チームにおける口腔ケアの成果，6，473-477.

松永智香・武田直子・西岡由江・岡村邦弘・山中俊典：精神科の急性期から社会復帰までをリカバリー支援する——総合心療センター近森ケアシステムの実践，6，478-484.

多職種協働時代における IT の活用 ——看護職が専門性を発揮できる環境をつくるために(7号)

瀬戸僚馬：多職種協働を最適化する情報共有基盤——独自性より汎用性ある看護サービスを提供するための患者記録，7，530-535.

鎌田智恵子：多職種で考えるケアプロセスの最適化——情報システム構築を通じて，7，536-542.

保坂良資：看護現場を起点とする潜在的問題の解析と対策——電子カルテ入力端末と小型 ME 機器の管理を例に，7，543-549.

秋山昌範：超高齢社会における医療介護福祉の ICT による多職種連携，7，550-555.

I 組織の“医療安全力”を高める人材育成(8号)

石川雅彦：トップマネジメントの一翼を担う看護管理者への期待，8，614-619.

石川雅彦：医療安全管理者養成研修のプログラム——組織の“医療安全力”を高めるための活用，8，620-625.

石川雅彦：部署・部門のリスクマネージャーを育成する！——臨床現場のフロントラインでの活躍への期待，8，626-631.

石川雅彦：患者相談対応担当職員の育成——「患者サポート体制充実加算」新設でより重要性がアップ！，8，632-637.

石川雅彦：職種経験年数と状況に対応した人材育成——非医療職職員も含めた全職員対象の教育体制づくり，8，638-643.

石川雅彦：職種と業務の特徴に対応した人材育成——自らのリスクセンスを磨き，チームの一員としての自覚をもつ，8，644-649.

II 医療機関において警察 OB が果たす役割 ——互いに手を取り合いながら職員の安全を守るために

横内昭光：職員の安全を守るために——警察 OB としての役割と今後に向けて，8，652-655.

三木明子：病院における警察 OB 雇用の実態——2012 年警察 OB と病院職員の調査結果から，8，656-661.

森山寛・小路美喜子：[インタビュー] 警察 OB を採用している組織から①——どこでも安心して医療を提供できる

環境をつくりたい——職員，そして患者さんのために組織全体を教育し，変えていく，8，662-665.

十時英二：[インタビュー] 警察 OB を採用している組織から②“警察 OB”ではなく，“豊かな経験をもつひとりの職員”として——組織のニーズに応じた役割を果たしてほしい，8，666-668.

奥野善彦：警察 OB が病院にいる意義——弁護士としてみた医療現場の潜在的問題から考える，8，669-672.

佐藤太郎：スペシャリストとしての警察 OB——多様な困難に病院全体で取り組むために，8，673-688.

III 役立ちます！認知行動療法 ——セルフケアにも患者ケアにも

伊藤絵美：管理者も認知行動療法を使いこなしてストレスケア！，8，692-697.

岡田佳詠：認知行動療法を取り入れると，積極的な看護に変わります。①，8，698-704.

矢内里英：看護への活用と自分のストレスコントロールに——看護師のメンタルヘルスをサポートする立場から，8，705-709.

みんなで支える！

業務実践への視野を広げる臨床看護研究 1(9号)

伊東美緒：病棟に勤務する看護師がどうして研究をしなければいけないの？——臨床看護研究を行なう意味，9，750-753.

堤福子・中尾秀子・伊東美緒：研修教育担当看護師長に聞く，臨床看護研究のマネジメント——臨床看護研究におけるマネジメントの仕組みづくり，9，754-759.

上林田津子・中尾秀子・伊東美緒：教育担当看護師長に聞く，臨床看護研究のマネジメント——高齢者専門病院における臨床看護研究のマネジメント——1 年目教育担当看護師長の試行錯誤，9，760-763.

伊東美緒：どのような人が臨床看護研究を進めやすいのか？——人選のポイントは何か，9，764-767.

宮下佳也子：高齢者専門急性期病院における看護の思いと看護研究，9，768-771.

伊東美緒：テーマ選びのポイント，9，772-774.

伊東美緒：テーマが決まったら，書いてみよう！——臨床看護研究のための研究計画書——はじめに書く書類なので，戸惑いもいっぱい，9，775-779.

伊東美緒：臨床看護研究には山あり谷あり——こんな壁があるかも！，9，780-783.

宮腰重三郎：医師からみる看護研究——最終目的は患者のためになること，9，784-785.

島田千穂：臨床看護研究を指導するときに外部講師が気をつけるポイント，9，786-790.

伊東美緒：さあ，論文を書いてみよう！，9，791-794.

みんなで支える！

業務実践への視野を広げる臨床看護研究 2(10号)

伊東美緒：いよいよ始まる臨床看護研究の実質的な活動！——テーマにあわせた研究方法を選択し，研究計画書や

倫理審査申請書を書く, 10, 836-837.
小笹由香: いまあらためて考える! —— 倫理審査はなぜ必要なのか, 10, 838-844.
平山亮: 質的データを用いる研究の前に知っておきたいこと①
—— インタビューデータの集め方, 10, 845-853.
平山亮: 質的データを用いる研究の前に知っておきたいこと②
—— インタビューデータの分析のしかた, 10, 854-862.

マネジメントリフレクションで 管理の質向上をめざす(11号)

河野秀一: 看護マネジメントリフレクションとは —— リフレクションを管理者向け集合研修に活かす, 11, 916-920.
河野秀一: 看護マネジメントリフレクションの実践, 11, 921-925.
河野秀一: 評価の方針とその後の活用, 11, 926-929.
田村由美: [インタビュー] 看護管理者がリフレクションを行なう意義, 11, 930-935.
安部陽子・長井友利子・大森綏子: キャリア手帳と研修へのリフレクション導入 —— リフレクティブな思考が身につくことで, 成果につながる行動変容を促す, 11, 936-943.

看護管理の実力をつけるマインド・スキル・ ツールメソッド(12号)

嶋森好子: 臨床看護のなかでのマネジメントスキルとは何か, 12, 1008-1010.
高田誠: M-S-T メソッドの考え方 —— 実践で成果を出せる力をつける研修の手法, 12, 1011-1018.
佐々木久美子: マインドの向上による看護部の変容 —— 師長のポジティブ思考を引き出すために, 12, 1019-1022.
松山昌子・黒江三千代: 論理的思考・情報整理スキルの活用 —— 看護師・看護補助者の清潔ケアに関する情報の整理, 12, 1023-1029.
吉川孝子: 看護師長主任合同研修による目標管理立案の過程 —— マネジメントツール活用による情報の整理と問題の焦点化, 12, 1030-1034.
秋山智弥: 看護部の組織ぐるみの取り組みの意図 —— 京都大学医学部附属病院の変化, 12, 1035-1039.
藤田あけみ: 看護師長・主任が継続的に研修に参加したことで看護部が動いた, 12, 1040-1044.
竹橋美由紀・岸田正則: 病院・看護部・事務局の win-win-win —— 研修企画と病院・事務局の支援, 12, 1045-1049.
山元恵子: マネジメントスキルという実力を身につけるための「か・き・く・け・こ」, 12, 1050-1054.

助産師出向システム —— 地域・施設間偏在是正とキャリア形成(13号)

福井トシ子: 施設を超えた人的資源マネジメント —— どこに住んでいても, 適切な医療・介護サービスが受けられる社会を実現するために, 13, 1120-1122.
福井トシ子: 助産師出向システムが必要な背景, 13, 1123-1129.
大学病院からの提案ではじまった市立病院への出向 1130
出向側の実際

原口眞紀子・上田順子: キャリアアップと地域貢献をめざして, 13, 1131-1133.
出向した助産師から
山中千晴: 自身のキャリアと地域全体を考える機会に, 13, 1134-1136.
受け入れ側の実際
惣万睦子: 即戦力としてだけでなく, 職員の意識改革にもつながった, 13, 1136-1138
受け入れ側の実際
佐山静江: 2次保健医療圏の基幹病院からの出向受け入れ, 13, 1139-1141.
研修として定期的に行なわれている出向 1142
出向側の実際
工藤祝子・朝野春美: 質の高い看護実践を通して地域医療に貢献する, 13, 1143-1146.
受け入れ側の実際
山本恵美子・伊藤雄二: それぞれの強みを活かしながら継続した教育を, 13, 1147-1148.
出向側の実際
砥石和子: 次のステップを考えた出向がキャリア形成につながる, 13, 1149-1151.

特別記事

被災地支援

東智子・大林由美子・千代慶子・浦田喜久子・川口智嘉子・渡辺絵美・三浦範子・小松恵智子: 看護職のみで編成された日本赤十字社の「看護ケア班」 —— 派遣の経緯と東日本大震災被災地での活動内容, 1, 39-47.
山之内薫: 東日本大震災におけるナースプラクティショナーとしての医療活動と, 中間診療師としての役割, 2, 131-135.

新人教育

グレッグ美鈴・林千冬・重松豊美: 米国における新卒看護師の卒後研修プログラムの現状, 2, 125-130.

被災地報告

石井幹子・後藤えり子・門間典子・川原礼子: 東日本大震災における東北大学病院の災害看護① —— 看護管理室の活動報告, 3, 211-216.
後藤えり子・石井幹子・門間典子・川原礼子: 東日本大震災における東北大学病院の災害看護② —— トリアージ対応を含めた外来機能における看護活動報告, 3, 217-222.
石井幹子・後藤えり子・門間典子・川原礼子: 東日本大震災における東北大学病院の災害看護③ —— シフト調整とケアのマネジメント, 3, 223-227.

東日本大震災における企業の活躍

五十嵐康仁: ①株式会社アールエフ —— 「災害に強いクリニック」とわれわれの役割, 3, 230.
松本忠明: ②帝人在宅医療株式会社 —— 大規模多数の被災者の安否確認と迅速な支援, 3, 231.
熊谷孔治: ③パラマウントベッド株式会社 —— 受け入れ先のニーズに合わせた支援, 3, 232.
大沢博之: ④東芝メディカルシステムズ株式会社 —— 被災医療機器の復旧支援および低被ばく検査の実現, 3, 233.

実態・提案

藤内美保・桜井礼子・草間朋子：在宅終末期医療に関わる訪問看護師の「死亡確認」に関する実態・提案——特定能力認証看護師の医行為，4，324-332.

提言

兪炳匡・佐々木朋子・Deborah Ward：看護政策研究に大規模データがなぜ必要なのか，4，333-337.

中島孝：患者もスタッフもいきいきとするケアを行なうために——治らない病気とともに生きる患者のQOLを考える，7，563-568.

地域医療

荻野美恵子：地域における大学病院の役割——来る少子多死時代に向かって，5，401-405.

事故対応

河西千秋・加藤大慈：院内自殺事故の事後対応，5，406-409.

司法看護

三木明子・新納美美・日下修一・宮本有紀：医療現場における看護と司法との接点——司法看護研究会の歩みから，5，410-413.

鼎談

2012 年度診療報酬改定をめぐって

福井トシ子・黒瀬正子・武井純子：看護補助者とチームとして協働する環境・教育体制づくり，6，486-494.

政策

筒井孝子：2012 年診療報酬・介護報酬同時改定における「看護必要度」——「2025 年のあるべき医療の姿」の実現に向けて，7，557-562.

奥村元子：2012 年度診療報酬改定——看護管理者のための読み方入門 3——がん対策・緩和ケアと認知症対策，8，728-735.

林田賢史：2025 年の医療のあるべき姿に向けた病床再編の流れを読む——DPC 制度の診療報酬改定内容と今後の役割分化・連携，12，1060-1066.

診療報酬

山田康夫：入門！診療報酬制度と診療報酬改定——次の環境変化に備えるために，8，712-727.

海外情報

網野寛子：オーストラリアの看護師免許登録・更新制度の現状，10，864-869.

ワークライフバランス

森井淳・鈴木真樹子：小規模院内託児所への春休み中の小学生受け入れと学生ボランティアの活用，11，944-948.

看護研究

平山亮：基礎から学ぶ量的データの扱い方①——データの収集方法とデータを量的データにすること，11，949-953.

平山亮：基礎から学ぶ量的データの扱い方②——量的データの分析のしかたⅠ，11，954-968.

平山 亮：基礎から学ぶ量的データの扱い方③——量的データの分析のしかたⅡ，13，1153-1158.

医療政策

尾崎雄：医師はほんとうに不足しているのか？——棚上げされた「医学部の新設」を考えるもう一つの視点，12，

1056-1059.

患者の目線

池田省三：「クーラの神話」と“良きケア”について——外来「オンコロジーセンター」に通いながら，12，1068-1070.

実践報告

小西育子：看護師の蓄積的疲労度の軽減を図る 2 交代と 3 交代とミックス型夜勤導入，5，414-416.

調査報告

中田知廣・山田彩子・山田貴子・田中紘一：経済連携協定にもとづく外国人看護師候補者の実情——兵庫県内候補者への聞き取り調査より，7，569-573.

NA レポート

早川ひと美：東北大学公開講演会「看護職がいきいき働くしくみ」レポート，1，54.

本誌編集室：市民と語り，ともに考えるこれからの医療のあり方——聖路加市民アカデミー 2011「みんなでつくる，まちの医療～行動を起こした市民に聞く～」が開催，1，78.

宇都宮明美・山口茂：聖路加看護大学・パラマウントベッド株式会社による産学連携事業——「クリティカルケア・シミュレーション教育プログラムセミナー」開講，5，436.

神保康子：ケアの現場にあふれるエピソードの数々——第 2 回「忘れられない看護エピソード」発表，9，795.

日本医療・病院管理学会第 308 回例会開催——ヨーロッパと日本の交代制勤務——看護師の健康な働き方を考えよう，12，1067.

本誌編集室：職員・患者の安全のための全国のネットワーク構築に向けて——HKO 会 第 9 回勉強会開催，12，1074.

本誌編集室：第 13 回日本医療情報学会看護学術大会開催——世界一高齢化の進んだ日本だからこそ「多職種協働」を！，13，1178.

連載 やじうま宮子の看護管理な日々

宮子あずさ

(70) 新卒者の配属，1，70-71.

(71) 大人になればわかるわよ，2，156-157.

(72) ホームの看護 アウェイの看護，3，242-243.

(73) 精神を病むことの大変さを思う，4，356-357.

(74) 母の急変，娘の大変，5，430-431.

(75) 悪性疾患以外の終末期，6，504-505.

(76) 母を見送って思うこと，7，586-587.

(77) 病む人自身が求める格差，9，808-809.

(78) 人それぞれの看護の楽しみ，10，886-887.

(79) 見えているもの 見えていないもの，11，984-985.

(80) 出来心実現化社会，12，1090-1091.

(81) 「お片付け本」読んでますか？，13，1174-1175.

連載 おとなが読む絵本

ケアする人、ケアされる人のために

柳田邦男

- (72) 大変な時代の子どもの心, 1, 68-69.
- (73) “心のあや”を語る絵本たち, 2, 154-155.
- (74) ちいさな一歩 大きな成長, 3, 248-249.
- (75) 子どもが自分を見つめるとき, 5, 432-433.
- (76) 困った子の心が180度変わるとき, 6, 506-507.
- (77) 人は未知の誰かに支えられて, 7, 588-589.
- (78) 子どもの心を汲み取るとは, 9, 810-811.
- (79) めぐるいのち 明日への希望, 10, 888-889.
- (80) 心に潤いを取り戻してくれる雲たち, 12, 1092-1093.

連載 つらつら NP ノート

鈴木美穂

- (10) 咳エチケット, 1, 48.
- (11) カルチュラル・コンピテンス, 2, 141.
- (12) 医師が選んだ支払いのよい保険会社ランキング, 3, 241.
- (13) 新卒ナースの就職事情, 4, 340.
- (14) やっぱバナナ, 5, 420.
- (15) 継続教育参加時間, 6, 496.
- (16) サバイバーシップ, 7, 581.
- (17) アイスコーヒー, 9, 799.
- (18) 看護の定義, 10, 875.

連載 看護師長のためのわかりやすい

病院経営基礎講座

河村博江：(9) 経営改善事例 その1——国立病院機構の再生プランから, 1, 62-65.

大鶴知之：(10) 経営改善事例 その2——米子医療センター, 2, 148-151.

河村博江：(11) 経営改善事例 その3——嬉野医療センター——急性期地域中核病院をめざして, 3, 244-247.

河村博江：(12) 経営改善事例 その4——旧療養所系病院の取り組み, 4, 350-354.

連載 グループ・ダイナミクスへの招待

本当に病棟を変えたい人のために

杉万俊夫

- (8) 活動理論の眼目——視野拡大で個人プレーがチームプレーに, 1, 72.
- (9) 夢を描く技法 (その1), 2, 142.
- (10) 夢を描く技法 (その2), 3, 250.
- (11) 言語の「かや」——ナラティブセラピー, 4, 342.
- (12) 学習する組織に必要な2つのレベル, 5, 422.

連載 政治と看護の話をしよう！

石田昌宏

- (1) よりよい看護をするための政治参加を考えたい, 1, 55.
- (2) 義務教育で看護を教える, 2, 143.
- (3) 人間に対する深い理解を政治の根っこに, 3, 240.
- (4) 看護職の誇りを実感できる現場を取り戻すために全速で

走る, 4, 343.

(5) 理想と現実の間にある制度と実態, 5, 423.

(6) 都道府県を超えた移動, 6, 497.

(7) 私の使命, 10, 879.

(8) 看護の責任性や特殊性, 質, 成果をベースにした給料表を開発すべき, 11, 971.

(9) 看護のナショナル・リサーチ・センターをつくりたい, 12, 1077.

(10) 機能分化よりも, 機能を果たすかどうかこそ議論すべき, 13, 1161.

連載 先を読むナースマネジャーのための発想法

坂本すが

(1) 先を読むときにすべきこと, 1, 49.

(2) ニーズを知る その1——「認識の三段階」を身につけよう, 2, 137.

(3) ニーズを知る その2——思いに共感し見通して事実を見極める, 3, 235.

(4) プレない幹をもつ——「自分は何をする人か」——地固め その1, 4, 339.

(5) くもの糸を張り巡らす!?——出会いが生き方を支えてくれる——地固め その2, 5, 419.

(6) 新しいことを積極的に行なっていく その1——なぜ看護職に新しいことが必要なのか?, 6, 495.

(7) 新しいことを積極的に行なっていく その2——「入口と出口の視覚化」と「比較」によって発想の転換を, 7, 579.

(8) 新しいことを積極的に行なっていく その3——スタッフ全員が「踊る」には組織に窓口機能をつくる, 9, 797.

(9) 多様性を重視していく その1——自分と同種でない種を探す, 10, 877.

(10) 多様性を重視していく その2——上司・部下も対等に, 大いに議論すべし, 11, 969.

(11) 多様性を重視していく その3——多様な看護を引き出す組織にする, 12, 1075.

(12) 困難があってもあきらめない人であれ, 13, 1159.

連載 しなやかに家族を看護するスタッフに育てよう

山崎あけみ・田淵由美：(1) ロールプレイ研修①——入院時の情報収集で家族の心をつかむ, 7, 574-577.

山崎あけみ・副田明美：(2) ロールプレイ研修②——家族のなかに一歩踏み込めるようになる, 9, 804-807.

山崎あけみ・津村明美：(3) グループワーク研修①——難しい家族とリラックスして話せるようになる, 10, 892-895.

山崎あけみ・野月千春：(4) グループワーク研修②——家族への実践をチームに伝える, 11, 980-983.

山崎あけみ・竹田聖子：(5) ケーススタディ①——家族の立場になって, 実践を振り返る, 12, 1086-1089.

山崎あけみ・倉富明美：(6) ケーススタディ②——今後出会う家族に役立てるようにまとめる, 13, 1170-1173.

連載 師長の臨床

- 佐藤紀子：(1) 看護管理学と看護職生涯発達学の根源にあるもの——平井さよ子さんからの宿題，10，870-874.
佐藤紀子・手島芳江：(2) 米国で看護管理を学んだ師長と考える日本の看護管理者の課題，11，976-979.
佐藤紀子・中野りか：(3) 「知」の身体性，12，1082-1085.
佐藤紀子・森浦佳奈子：(4) 生きることは考えること，13，1166-1169.

シリーズ 患者の目線

医療“関係者”が患者・家族になって

- 中村順子：(10) 物語としての人生の看取り——抜管して良かった——救急車で運ばれた後で，1，66-67.
高山雅子：(11) その人の治療の意味を考える——看護師をしている私が乳がんになった——その1，2，152-153.
高山雅子：(12) あったらいいな“外来カフェ”——看護師をしている私が乳がんになった——その2，3，252-253.
上野創：(13) 看護観察と申し送りでは見守られていた——26歳のがん告知から，元気な40歳へ，4，358-359.
及川由利子：(14) 医学知識をもった友人のような心の支え——告知・術後の混乱から自分を取り戻す，5，434-435.
池田省三：(15) 腑に落ちる人生 腑に落ちる死——「ステージ4」告知から1年半，6，508-509.
望月正敏：(16) 目線と一言 入院2週間，母を看取る，7，590-591.
みやび：(17) かかりつけ医の肝っ玉主任さん——プライマリケアの最前線，9，812-813.
村上紀美子：(18) 激痛で外来へ……助けの総合案内——腰痛からヘルニア手術 その1，10，890-891.
村上紀美子：(19) はじめての入院 経験知に納得——腰痛からヘルニア手術 その2，11，986-987.
阿保順子：(20) 父と姑の胃ろう 表現しようのない感情——延命処置に関する選択を迫られて，13，1176-1177.

シリーズ ひとつうえの看護の力 CNS

がん看護専門看護師編

- 宇野さつき・新国雅史・山田雅子：(2) [巻頭座談会] 診療所で地域全体のリソースとして看護力のボトムアップを図る，6，445-451.

シリーズ Will & Voice

- 似田貝香門：(1) 医療職がボランティアをするということ，1，50-51.
清水隆裕：(2) すべての喫煙者に伝えるべきこと，2，138-139.
細田満和子：(3) 市民が声を上げ，それに耳を傾ける文化をどう醸成するか——医療の制度や政策を変えるアメリカから，4，344-345.
山野辺裕二：(4) クラウド・コンピューティングとモバイル端末によるワークスタイルの改善，5，424-425.
細田満和子：(5) 准看護師問題再訪——問われる看護界の自律性，10，880-881.

シリーズ 職員の安心を支える病院デカ

- 横内昭光・森山寛・高橋則子：(1) 信頼関係は相手の「目」を見ることから，1，52-53.
佐藤太郎：(2) 110番のたろーちゃん奮戦記 その1——長い時間と忍耐が必要な患者対応，2，140.
佐藤太郎：(3) 110番のたろーちゃん奮戦記 その2——悪質犯罪の抑止，3，251.
細矢久幸：(4) その男，ドロボー，4，341.
佐藤裕宣：(5) 防犯カメラは見ていた，5，421.
礫石浅治：(6) 不当要求には毅然とした態度で，6，499.
齋藤忠利：(7) 事件化できない迷惑行為をどうするか，7，580.
高野元伸：(8) なりすまし受診，9，798.
前芳男：(9) 医療者の指示に従わない迷惑患者をどうするか——心が落ち着く「安全・安心な病院」をめざして，10，876.
瀬尾満義：(10) 現行犯は警察官でなくとも逮捕できる！，11，970.
中野省三：(11) 電話による強迫事件への対応，12，1076.
横内昭光：(12) お礼参り「航空機事故より確率が低い」はず，13，1160.

シリーズ 専門看護師の臨床推論

- 井部俊子・大生定義：(1) 専門看護師による「動画」的臨床推論と医師による「スナップ写真」的臨床推論，1，56-61.
宇都宮明美・井部俊子・大生定義：(2) 患者の「ふみとどまる力」を支える，2，144-147.
梅田恵・大生定義・井部俊子：(3) 患者の「拒否」をほどいて「つなぐ」，3，236-239.
瀧真弓・大生定義・井部俊子：(4) 妊婦・胎児のもつ力を見積もり，引き出す，4，346-349.
大橋明子・大生定義・井部俊子：(5) 急性状態にある精神疾患患者への治療様式としてのアプローチと全身清拭，5，426-429.
田代真理・大生定義・井部俊子：(6) 患者の「家に帰りたい」思いをかなえるための調整力，6，500-503.
長谷川久巳・大生定義・井部俊子：(7) 残された時間のコーディネート，7，582-585.
白井教子・大生定義・井部俊子：(8) 症状の背景にある要因を見極める，9，800-803.
米田昭子・大生定義・井部俊子：(9) 高血糖状態にあるがん患者への“あえて食べることの選択”——強化インスリン療法の導入指導とともに，10，882-885.
塩塚優子・大生定義・井部俊子：(10) 認知症高齢者の「食べる」楽しさを支える，11，972-975.
渡邊輝子・大生定義・井部俊子：(11) 母親が子どもにしたいことを実現する——ベッド上で行なわれた卒園式・入学式，12，1078-1081.
中山祐紀子・大生定義・井部俊子：(12) 患者の最後の希望をかなえる——終末期にある患者の希望を「カシオペア」に乗せて，13，1162-1165.

巻頭

- 日野原重明・安井はるみ：[インタビュー] 100歳を迎えた今、考えること——看護管理者のこれからの仕事，1，1-5.
- 大井玄・山本則子：[対談] 日本の看取りはどう変わるのか——高齢者が急増する時代の終末期医療を考えるヒント，2，83-89.
- 日野原重明・勝原裕美子・松村啓史：[鼎談] 今，求められているのは「激しさ」——未来へのアクションを考える，3，167-173.
- 高本眞一・渡辺真理：[対談] 患者とともに生きる——「医療人」としてよりよい看護を提供するために，4，259-265.
- 尾崎雄：[対談傍聴記] 誰のための医療か？ ミッションを共有するために，4，266-267.
- 河村博江・山西文子・北川博一・石尾肇・長田恵子：[座談会] 病棟運営に活きる経営の目線，5，367-373.
- 大森綾子・安部陽子：[インタビュー] トップリーダーとしてどのように他組織と協働し，人材を活かしていくか——兵庫県看護協会の取り組み，7，519-525.
- 村上智彦・八田政浩・横田久美子・米内美奈子・青木光・宇都宮宏子：地域医療のめざす姿はここにあった！——夕張希望の杜の患者＋多職種協働の成果，8，601-609.
- 坂本すが：[インタビュー] 病院中心から生活のなかへ——世界に超高齢社会を支えるモデルを示す，9，741-745.
- 中西睦子・林千冬：ナースよ リアリストたれ——看護基礎教育の現実を前にして，10，823-831.
- 神坂登世子・江田柳子・鎌田久美子：行政と連携して教育の充実を図り地域で看護の質を向上させる！——未来を育てる福岡県看護協会の取り組み，11，905-911.
- 嶋森好子・高田誠・山元恵子・藤田あけみ：日本の看護管理

のよさとマネジメント力の融合——マネジメントスキル——M-S-T メソッド，12，997-1003.

[学会 REPORT] 第43回日本看護学会 看護管理 学術集会開催される，13，1103-1107.

鳥越俊太郎・梅田 恵：[インタビュー] がん患者の立場から看護管理者に望むこと，13，1109-1115.

書評

- 岡島恵子：ケアする人も楽になる認知行動療法入門 BOOK1 & BOOK2，1，73.
- 菅原典子：悲嘆とグリーフケア，2，158.
- 勝原裕美子：わたしがもういちど看護師長をするなら，2，159.
- 小島恭子：女って大変。——働くことと生きることのワークライフバランス考，3，234.
- ウィリアムソン彰子：女って大変。——働くことと生きることのワークライフバランス考，4，355.
- 吉永尚紀：進め方と方法がはっきりわかる看護のための認知行動療法，5，437.
- 丸口ミサエ：病棟・外来から始める——リンパ浮腫予防指導，6，498.
- 原田博子：質的研究の基礎——グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第3版，7，578.
- 陣田泰子：質的統合法入門——考え方と手順，9，796.
- 中島美津子：自分を支える心の技法——対人関係を変える9つのレッスン，10，878.
- 川嶋みどり：M-Test——経絡と動きでつかむ症候へのアプローチ，12，1071.
- 吉富若枝：DVD 映像で理解する吸引の技術，12，1072.